

世羅高校 全国高等学校駅伝競走大会 5年ぶり2度目の **男女同時優勝**



令和2年12月20日(日)、男子第71回 女子32回全国高等学校駅伝競走大会が京都市のたけびしスタジアム京都発着コースであり、広島県立世羅高等学校が、大会史上4度目、チームでは5年ぶり2度目となる男女同時優勝を果たしました。

男子は全国最多10度目の優勝と、日本高校陸上競技の歴史の中でも記録と記憶に残る素晴らしい快挙を達成しました。また女子は5年ぶり2度目の優勝で、このコロナ禍で暗いニュースばかりが報道される中、明るい話題を提供していただき、感動を与えていただきました。

全国高等学校駅伝競走大会男女同時優勝を果たして

監督・選手のコメント



男子監督 新宅 昭二

「速さより強さを」をスローガンに、どのようなレース展開やアクシデントに見舞われようとも、自分を見失うことなく、実力を発揮できるチーム作りに徹してきました。



女子監督 中川 久枝

「自分で考えて行動する」という前監督から言われ続けてきた言葉の意味が問われる期間でした。「全国優勝」という明確な目標をもち、自分のできることは何かを考え行動し、3年生を中心にチームがまとまりました。

【男子】 全国最多10度目の優勝



1区 2年 森下 翔太

昨年はテレビからの応援ありがとうございました。今年度の全国大会は、新型コロナウイルスの影響で例年とは違った無観客での開催となりました。また、全国大会までは寮が閉鎖となり、みんなと一緒に練習できない状況が続きました。そういう中でも、チームの仲間と連絡をとり練習方法を共有して、練習を続けることができました。12月に入り、コロナ感染が拡大し開催されるかどうか不安もありましたが、大会当日を迎えることができました。そして、昨年一年間チームの目標としていた「全国大会優勝」を達成することもできました。

今回、私は1区を走りましたが、個人としては後半離されてしまい課題が残るレースとなりました。しかし、ライバル校とわずかの差で襷を渡すことができたので、自分の役割は果たせたと思います。

今年、2連覇を狙えるのは世羅高校だけなので、個人では今回残った課題を克服し、チームの雰囲気づくりを大切にしていきたいです。そして今年、大会新記録で2連覇できるよう、日々の生活や練習を大事にしていきたいです。



2区 3年 吉本 真啓

昨年の全国高校駅伝競走大会では、応援いただきありがとうございました。世羅高校は男女アベック優勝、そして男子は最多10回目の優勝をすることができました。

私は2区を走りました。昨年も同じ区間を任せられ、経験しているコースだったので、あまり緊張することなく走ることができました。レース展開の構想は、初めの1000メートルは余裕をもって走り、ラスト1000メートルが勝負だと思っていました。しかし、最初は余裕をもって走ることができていましたが、ラストは体が重く、切り替えることができませんでした。チームとしては優勝することができ良かったのですが、個人としては悔しい思いをし、まだまだ力不足だと痛感しました。

今後は大学に進学し陸上を続ける予定で、目標は「大学ナンバーワン」になることです。世羅高校も全国ナンバーワン、そして2連覇という大きな目標があります。卒業しても、後輩たちと同じく頂点を目指し、走り続けます。



3区 2年 コスマス・ムワンギ

昨年の全国高校駅伝競走大会では、ご声援ありがとうございました。私は3区を走りました。私にタスキが繋がるまでにとっても良い流れができていて、私もその流れに乗って走ることができました。結果的に、新谷選手に一位でタスキを繋ぐことができ、また個人としても区間新記録で走ることができたので、とても嬉しいと思います。

昨年は新型コロナウイルスの影響でとても苦しい時期がありました。チームのみんなと離れて練習することになりましたが、そこから私は集団の大切さを知りました。普段の生活に戻ってからも今まで以上に一日一日の練習を大切にできるようになり、チームのみんなも同様に高い意識で

練習に取り組めてきたと思います。

大会新記録という大きな目標を達成することはできませんでしたが、私にはもう一年あります。2連覇というの簡単なことではないと思いますが、今年こそ、チームの大きな目標である「大会新記録で2連覇」を達成できるよう頑張りたいです。



4区 3年 新谷 紘ノ介

昨年12月20日に開催された全国高校駅伝競走大会では、男女アベック優勝することができました。男子チームの主将として引っ張ってきたこの1年間、いや、世羅高校に在籍したこの3年間は、決して順風満帆といえるものではありませんでした。しかし、成功と失敗を繰り返し積み重ねることで、自分自身が大きく成長できたと思います。そして、3年間の努力が、今回の優勝で報われました。

特に今年度は、新型コロナウイルスの影響で思うような練習ができず、我慢し続けることばかりで自分を見失いそうになることもありました。しかし、私たちには「日本一になる」という目標がありました。それがあったからこそ、様々な大会がなくなっても変わらず努力し続けることができました。

また、多くの方々に支えられていることを強く感じた年でもありました。そういった意味では、応援してくださったたくさんの方々に、優勝という結果で恩返しできてよかったと思います。今大会は私にとって大きな財産となったことは言うまでもなく、この経験を糧に、次のステージでも活躍できるよう頑張ります。



5区 1年 石堂 壮真

今までとは異なる形での開催となった全国高校駅伝競走大会を終えて、私は多くのことを学びました。

一つは、全国優勝という最高の結果で終わったことに対する喜びですが、それと同時に、個人の成績として、あまりよい走りができなかったという悔しさが残り、全国の舞台で、自分の実力不足を強く感じました。

また、新型コロナウイルスの影響で、例年とは違うスタートで、全国大会までに行われる試合も少なかったため、一試合、一試合により集中し、日頃の生活や練習も本当に大切な1年となりました。

今回、優勝はできましたが、過去に先輩方が作られた大会記録には届きませんでした。来年、個人としては5000メートルで13分台を出し、どの区間でも区間賞を獲れるぐらいの実力をつけ、「2連覇、大会新記録」の二つの目標を達成できるよう、これまで以上に身を引き締めて頑張っていきたいです。これは並大抵の努力では絶対に達成できないと分かっているため、今回の経験を糧にして日々の練習を高い意識で取り組んでいきたいです。



6区 2年 吉川 響

新型コロナウイルスの感染が広がっている中でのご声援ありがとうございました。コロナの影響により、全国大会も中止になるのではないかと不安もありましたが、無事開催され、男女とも優勝することができました。

男子が走る前に女子が優勝したのを見て、自分たちも何としても優勝し、「世羅高校アベック優勝」を飾ってやるという気持ちが自然と湧いてきました。

私は6区というアップダウンがあるコースを走りました。トップを走っているときは、とても楽しかったです。後ろから他のチームが追いついてこないかと不安もありましたが、何とかそのままトップで襷を渡すことができました。しかし、個人の記録としては区間6位で、自分の力不足を認識する結果となりました。

今年はチーム全体の目標である「大会記録を更新し、優勝する」ということが実現できるよう、新チームで頑張っていきたいと思います。また、個人でも区間賞を獲得することを今年の目標として、日々の練習や生活に取り組んでいきたいと思っています。



7区 2年 塩出 翔太

昨年の全国高校駅伝では、たくさんのご声援、ありがとうございました。昨年は新型コロナウイルスの影響で思うようにチーム練習ができなかったり、インターハイや記録会がなくなったりと、気持ちの切り替えができなかった時期もありました。

6月以降、やっとチームのみんなと練習することができ、全国大会へ出場し必ず優勝しようとチーム内の雰囲気も良くなっていました。県高校駅伝(県予選)では、トラックにより襷を使わないレース形式で行われました。違和感も少しありましたが、無事優勝することができ、これまでの練習の成果を感じることができました。

12月の全国大会当日は、少し緊張もありましたが、ワクワクした気持ちもあり、早くチームのみんなと走りたいという思いが大きかったです。午前の女子のレースで、世羅高校が優勝したことを輸送バスのテレビで確認しました。その時から「アベック優勝」という言葉が頭の中に浮かび、それが力になったのだと思います。

今回、私は最終7区を走りました。1区が良い位置で発進し、みんなの走りで自分がトップで襷を受け取った時は、後ろのチームとの差もあり、焦らずに自分のペースで走り切ることができました。

今年は「大会新記録で2連覇」という目標を達成するため、昨年より強いチームで大会に臨めるよう、日々の生活や練習に取り組んでいきたいと思っています。

【女子】 5年ぶり2度目の優勝



1区 3年 山際 夏芽

昨年の全国高校駅伝では、たくさんのご声援、本当にありがとうございました。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、寮が閉鎖となり、改めてチーム全員で一緒に練習できることや、何より、この世羅ならではの環境で走ることがどれだけ恵まれていたのかを痛感しました。

そんな私達が、全国優勝という高い壁を乗り越えることができたのは、私達の手だけではなく、たくさんの方々の支えがあったからです。関わってくださった全ての方々に感謝の気持ちしかありません。世羅高校陸上部をずっと応援してくださっている世羅町民の方々にも、やっと走りて恩返しをすることができ、嬉しく思います。また、この一年間、インターハイが中止になるなど、たくさんの方々の悔しさを味わってききましたが、この三年間の集大成のレースで「優勝」という形で報われました。

私は、これからも陸上競技を続けていきますが、世羅高校で学んだことを大学でも活かし、頑張っていきます。本当にありがとうございました。



2区 3年 加藤 小雪

昨年の全国高校駅伝では、たくさんのご声援ありがとうございました。今回は新型コロナの影響で無観客でのレースとなりましたが、地域の方々や家族、チームメイトなどの応援があったからこそ、頑張ることができました。個人的には、満足するような走りができず、悔しさも残りましたが、この悔しさを、次のステージで晴らせるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

今回、このように全国優勝を勝ち取ることができたのは、地域の方々、家族、仲間の支えがあったからだと思います。この三年間で学んだことを忘れず、常に周りの人達への感謝の気持ちを大切に、これからも進んでいきたいと思っています。

今後とも、世羅高校陸上部へのご声援よろしくお願いします。本当にありがとうございました。



3区 2年 細迫 由野

昨年の全国高校駅伝では、たくさんの方々の応援ありがとうございました。目標としていた全国優勝を飾り、大会を笑顔で終えることができました。私は、一年生の時、この都大路を走ることができず、大変悔しい思いをしました。この一年間、都大路を目標に、悔しさを忘れることなく練習を重ねてきました。今回、私は3区を走りました。順位を一つ落としてしまい、個人としては納得のいく走りではありませんでしたが、それでも最終的にはチームに少しでも貢献できたと思います。先輩方と一緒に、最高の形でレースを終えることができて、とても嬉しかったです。今年は、これまでの経験を活かしてチームを引っ張り、昨年よりもっとレベルアップして都大路を迎えられるよう、チーム一丸となって頑張っていきたいです。

また、今回優勝できたのは、地域の方々をはじめ、たくさんの方々の支えがあったからです。本当にありがとうございました。これからも引き続きご声援よろしくお願いします。



4区 3年 加藤 美咲

昨年の全国高校駅伝では、たくさんのご声援ありがとうございました。私は今回、初めての全国の舞台で4区を走ることができました。走る前はとても緊張していて、不安もたくさんありました。しかし、走ってみると緊張も不安も吹っ飛び、楽しく走り切ることができました。しかし、自分の中ではあまり満足のいく走りができず、悔いも残ってしまいました。後悔なく終わりたいという思いがあったので残念でしたが、次のステージでこの悔しさを挽回したいと思います。

今回、男女ともに全国優勝することができ、メンバー一同とても嬉しかったことは言うまでもありませんが、優勝に導いてくれたのは、地域の方々や家族など、たくさんの方々の支えによるものだと思います。本当にありがとうございました。これからも世羅高校陸上部への応援よろしくお願いします。



5区 3年 テレシア・ムッソーニ

昨年の全国高校駅伝では、たくさんのご声援ありがとうございました。私は、5区を走りました。チームのみんなが良い流れで襷をつないでくれたので、私は「優勝できる」という自信がありました。そして、全力を出し切り、ゴールテープを切った時は、とても大きな達成感と感動を味わうことができました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、チーム全体での練習ができない時期もありました。しかし、だからこそ、自分一人で練習することの難しさやチームの大切さに気付きました。あの期間を乗り越えたことで、チームにより大きな団結力が生まれました。そして、一年生の頃から目標にしていた「全国高校駅伝で区間新記録を出して優勝する」ことを達成できました。

今回、このような結果を出すことができたのは、地域の方々をはじめたくさんの方々の支援があったからこそだと思います。本当に感謝しています。引き続き、世羅高校陸上部へのご声援よろしくお願いします。



コカ・コーラレッドスパークスホッケー部 3冠達成!!!

【優勝のご報告】

2020年新型コロナウイルス感染拡大は例に漏れることなくホッケー競技界にも大きな影響を及ぼしました。例年であれば5月にはホッケー競技の本格的なシーズンインを迎えていますが、大きく遅れ公式戦の初戦は10月4日に開催されたホッケージャパンリーグの第一戦でした。コカ・コーラレッドスパークスは、食品会社のカンパニースポーツチームです。会社の看板を背負っているという一面を持つチームとして、徹底した感染防止策を講じました。それがチームの強化活動に影響を及ぼし、リーグ加盟の他チームより練習開始の時期が大幅に遅れた上、他チームとの練習試合の機会をとることもできませんでした。又、家庭の事情で豪州へ帰国していた監督の来日も思う様にならず、チームに合流できたのはシーズンイン直前という有様で、チームのメンバーは指導者不在の中で試合に向けたトレーニングをすることが余儀なくされるという苦境にたたさるることになりました。しかし、それ故、各メンバーに強い自主性が生まれたことに合わせ、メンバー間のコミュニケーションも能動的に工夫しながら取るように心掛けて行動し、それがチームの強い一体感の醸成につながったものと思います。そして、何よりチームの起爆剤となったのは、リーグ初戦、大学チームとの対戦でまさかの敗戦に終わったことにあった



ようです。この先、決して一戦も落とせないと追いつかれ、チームの緊張感は最高峰に達しました。その後は、不退転の気持ちも弛むことなく試合をこなしてゆき、結果、全日本社会人選手権2年連続となる優勝を皮切りに、6年ぶりとなる日本リーグの優勝、そして8年ぶりとなる全日本選手権で優勝し、これにより国内における全公式戦を制覇することができました。これも多くの方々からいただいた励ましのお言葉や支えてくださる関係者の方々、何より現下の情勢にあっても大会を安全に開催して下さった方々の尽力のおかげと感謝の念に堪えません。

(コカ・コーラレッドスパークスホッケー部 部長兼チームディレクター 矢野茂樹)

【金藤キャプテンからの挨拶】

いつも温かい応援ありがとうございます。三冠という最高の結果をみなさまにご報告できたこと嬉しく思います。昨年は無観客試合が多く会場で試合を観ていただく機会がほとんどありませんでしたが、ネット配信などで試合のライブ映像をチェックしてくださったり、励ましのお言葉を頂いたり、常に多くの方々から応援を頂いていると感じながら戦うことができました。今年は大事な一年になると思います。連覇してこそ強いチームだと思います。昨年に引き続き「完全制覇」を目指します。今後ともコカ・コーラレッドスパークスへの応援をよろしくお願いいたします。



中国電力女子卓球部 後期日本リーグ優勝



最高殊勲選手賞の成本綾海選手
(写真提供：ニッタクニュース)

11月13日～15日熊本県立総合体育館で行われた「2020年度後期日本卓球リーグ熊本大会」の女子1部において中国電力が2期連続3回目の優勝を果たしました。新型コロナウイルスの影響により、ダブルスなしの4シングルのみで競い引き分けありなどのルール変更に加えて無観客での開催となりました。初戦から全て4-0で3連勝と快勝。第4戦で十六銀行に引き分けたものの続く第5戦でサンリツに3-1と快勝。さらに、4勝同士で並んだデンソーを3-1で下し、無敗のままで昭和電工マテリアルズと最終決戦へ。

優勝が懸かるプレッシャーの中、1番の宋恵佳選手が敗れたものの2番で今大会全勝の成本綾海選手が劣勢から見事勝利。3番庄司有貴選手が惜敗し、1-2と追い込まれます。4番の土田美佳選手がゲームカウント0-2から驚異的な粘りを見せ逆転勝利を決め、引き分けに持ち込んだ結果、5勝0敗2分で、優勝を決めました。

7戦全勝の成本綾海選手が、優勝に最も貢献した選手に贈られる「最高殊勲選手賞」を受賞、土田美佳選手が大会を盛り上げた選手に贈られる「ファインプレー賞」を受賞しました。

コロナ禍での大会開催を引き受けていただいた熊本県の関係者の方々に感謝いたします。

今後も皆さまに元気をお届けできるようチームワークを大切に頑張っていきますので応援よろしくお願いいたします。

(中国電力女子卓球部 監督 松岡俊志)



(写真提供：ニッタクニュース)

NTT西日本ソフトテニス部 日本リーグ11連覇

日本リーグ11連覇を達成して

お陰さまで、日本リーグ11連覇を達成することが出来ました。これも日々の練習で使用させていただいている広島県内・市内の各施設、スタッフの皆様、そして県民・市民のみなさまの応援・支援があつてのものです。心より御礼申し上げます。

今年度は、コロナの影響で、例年以上にたくさんの施設場所を転々とし、施設が使えない期間は市内の公園や河川敷を活用させていただき、自主トレーニングに励んできました。街並みを知ることが出来たり、一般市民の方々もたくさん汗を流されており、今まで気づけなかったことにも気づき、感謝できる期間となりました。他のアスリートの方々とコロナ禍の苦労やモチベーションの維持など、意見を交わすことが増え、つながりが増した期間となりました。コロナ禍においても、様々な学びや向上はあったのですが、試合勘はやはり薄れてしまい、10月のオープン大会では大惨敗し、チーム一同トレーニングに例年以上に力を入れてきた分、ショックが大きく、監督として「12月までに立て直せるか？」不安の毎日でした。選手は自信があつた中でオープン戦敗戦を嘆き、腐ることなく、選手間でミーティングを再度行ったりなどして、ギアを更に上げて取り組んでくれました。練習の中からもコミュニケーションが増え、ミスを許さない姿勢や、日々の厳しさが増したように思います。外発的な刺激は一過性に過ぎないが、内発的な取り組みは絶対に自分たちに返ってくる。監督としては充実し、安心して日本リーグに挑むことが出来ました。11連覇の中で、どの優勝も思い出深い、意味深いものではありませんが、今年の優勝が今までと違った点は、選手の誰一人として「油断」する瞬間がなかったように思います。例年であれば、1日目にスキがあつたり、2日目に油断や慢心があつたりするのですが、初戦の1ゲーム目から全員が「この一球」に集中して、チーム一丸で戦うことが出来ました。流行り言葉で言えば「全集中」出来ていて、アップやケアも万全な状態で試合に臨む姿勢が見受けられました。絶好調!のラッキーボーイ的な選手が例年はいるものなのですが、今年に限っては全員がいつも通りの戦いで他チームを圧倒してくれました。地力が高まった証拠、これは選手の努力の結晶、とくにコロナ禍で頑張ってきたこと、オープン大会で苦しんで得た教訓が、あらゆる面において発揮されたからだと思います。

「勝って驕らず、負けて腐らず」の繰り返しです。

2021も変化を恐れず、現状に満足せず、日々プレー出来ることに感謝しながら邁進します。スポーツで広島を盛り上げ、広島から世界へ!を合言葉に顔晴って参ります。(NTT西日本ソフトテニス部 監督 堀 晃大)





さあ、ともに 未来へ!



ラグビー部



女子卓球部



陸上競技部

中国電力ではシンボルスポーツ部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社

<https://www.energia.co.jp/>

広島スポーツ余話 ①

五輪観戦第一号は広陵中学教師、藤重 源

広島県下への近代スポーツの訪れは、今から約130年前の明治半ばとされる。野球、漕艇、テニスなど多くの競技が伝えられた。温暖な地で、進取の気性に富む県民性は以後、さまざまな競技で名選手を輩出した。「スポーツ王国」の名をほしいままにした時代もあった。スポーツと広島のかかわりの意外な歴史を紹介したい。「余話」とは、「こぼれ話」の意である。



オリンピックが「五輪」と称されるようになったのは1936年からだ。オリンピック旗の輪にちなむ「五輪」の二字は、ベルリン大会直前の6月、読売新聞運動部の川本信正記者が思いついた造語である。ライバルの各紙も追随し、これ以降すっかり定着した。

五輪に日本が初めて参加したのは1912年、ストックホルムの第5回大会であった。陸上短距離の三島弥彦、マラソンの金栗四三わずか2人の選手団であり、役員も団長の嘉納治五郎、監督大森兵蔵の2人だけである。競技成績に見るべきものはなかった。三島は短距離3種目とも決勝へ進めず、金栗は途中棄権。近代スポーツ導入から日の浅い日本にとって、好記録を求めるのは時期尚早だった。

ストックホルムのスタジアムでは小柄な日本人が食い入るように競技を見つめていた。時には金栗のマラソン練習にも付き合っていた。男の名前は藤重源(はじめ)、広島市の私立広陵中学校で体育教師を務めていた。ストックホルムの会場の日本人は当地の外交官、留学中の軍人、それに特派員として赴任した新聞記者2人がいる程度であった。藤重はストックホルム五輪を観戦した唯一の民間人といってよかった。

なぜ、広島の体育教師が北欧の地にいたのか。それは、藤重が現地から勤務校へ寄稿した観戦記「瑞典通信」によって明らかになった。「瑞典」はスウェーデンのことである。

広陵中学校(現広陵高校)の校内誌「広陵」第3号(1911年10月発行)は、13ページにわたって藤重の「瑞典通信」を掲載した。それによれば、藤重は「オリンピック並びに欧米の体育事情見聞のため」に5月末からシベリア鉄道を利用して単身で渡航した。新聞社の特約記者の肩書を入手したとするが、それらしい記事を送稿した形跡はない。だが、観戦していたことは読売新聞記事にも載っており、五輪期間中は精力的に行動していたようだ。

初の五輪で実力を発揮できぬ日本選手と欧米アスリートの力量の差に「肩身の狭い感じがする」と嘆いた藤重は、一方で「科学研究を要するの急なる感ずる」と指摘した。

この時、藤重は22歳の青年体育教師であった。大竹市の出身で、日本体操学校(後の日体大)を卒業して五輪の前年、広陵中学校へ着任し、体操を教える傍ら柔道部の顧問に就いた。藤重はどうして欧州の五輪観戦という破天荒な挙に出たのか、瑞典通信に動機は載っていない。おそらく、東京の学生時代に五輪の壮大な内容を知り、日本初参加の報を聞かざるや「日本選手の活躍ぶりを観よう」と勇んで観戦を思い立ち、渡航に及んだのではなかろうか。

藤重出発の様子は当時の芸備日新聞、中国新聞両紙が「藤重教諭の渡欧」と報じた。だが、帰国したとする報道は見当たらない。観戦記の末尾には「五輪閉会後はデンマーク、英国の体育事情を視察し、グラスゴーから乗船」の記述があるだけだった。

結局、それっきり藤重は日本に戻ってこなかった。英国グラスゴー発の客船はニューヨーク行きであった。新天地アメリカに住み着いた藤重は「ハジメ・フジシゲ」として生き抜いた。西海岸カリフォルニア州サクラメント市で日本人学校教師となり妻帯、第二次大戦末期はアリゾナ州で収容所生活を送っている。戦後、帰化し市民権を得てロサンゼルスに住んだ。1981年に91歳で亡くなった。

藤重はなぜ、広島へ戻ってこなかったのだろうか?大竹市に住む親族が明かすには「五輪期間中に大金を無心してきた。父親は田畑を手離して当時2,000円を送金したそうだ。源は終生『親に顔向けできない』と思い込んでいたのではないかと、一度も里帰りしなかった胸中を察した。

広島県体育協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学教授)



広陵中学校柔道部顧問の藤重教諭(中列⑥)

瑞典外四国

氏名	職名	生年	死年	備考
藤重源	体育教師	1890	1981	大竹市出身
嘉納治五郎	団長	1874	1938	大分県出身
大森兵蔵	監督	1874	1938	大分県出身
三島弥彦	選手	1890	1938	大分県出身
金栗四三	選手	1890	1938	大分県出身

外国旅券下附表 広島県

「瑞典外四国、体育研究」の旅券下附表(広島県立文書館所蔵)

建物に快適パフォーマンスを。

もっと最適に、もっと快適に。
建物の快適性をさらに追求する
その思いを胸に、磨きかけた技術で
さまざまな設備を施工しています。
中電工のパフォーマンスが
建物のパフォーマンスを向上させ
さらにスムーズな社会と
快適な未来をつくり出す。
「人と技術で“夢”づくり」
私たちは中電工です。



屋内電気工事	空調管工事
情報通信工事	配電線工事
送変電工事	リニューアル工事
エネルギー関連工事	環境関連工事



中電工

www.chudenko.co.jp

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
TEL.082-291-7411

第76回 国民体育大会冬季大会

スケート競技会・アイスホッケー競技会

第76回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会が、令和3年1月27日(水)から31日(日)まで愛知県名古屋市を主会場に開催された。

広島県の新型コロナウイルス感染拡大防止集中対策期間のため令和3年1月14日(木)に予定していた広島県選手団の結団・壮行式中止し、規模を縮小した団旗授与式を広島県庁で行った。大中恒男団長(広島県スケート連盟会長、広島県アイスホッケー連盟会長)以下47名の選手団が発表され、団旗が団長に授与された。



大中恒男団長は、新型コロナウイルス感染症の影響により体調管理や強化事業の制約など例年にない厳しい状況だが、選手団一丸となって戦うと決意を述べた。

スケート競技では、ショートトラック少年女子の谷本陽選手(広島女学院高等学校)が500mで8位に入賞した。フィギュアは少年男子が9位、少年女子が11位とあと一歩のところに入賞を逃した。

アイスホッケー競技は、成年男子・少年男子とも1回戦で敗れた。

今大会は『夢きらリンク愛知国体』新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインにより徹底した防止対策がとられる中で行われた。

←ショートトラック少年女子8位入賞 谷本陽選手



大中恒男団長(写真右)、旗手は、谷本光選手(スケート競技ショートトラック成年女子)

令和2年度スポーツ少年団顕彰受賞者

日本スポーツ少年団顕彰

表彰市区町村スポーツ少年団

表彰登録者

安芸高田市スポーツ少年団

檜皮 浩二(広島市)

米元 広治(広島市)

小林 康史(福山市)

広島県スポーツ少年団顕彰

単位スポーツ少年団

藤江剣道クラブスポーツ少年団(福山市)

湯田ジュニアバレーボールスポーツ少年団(福山市)

海田柔道スポーツ少年団(海田町)

登録者(指導者、役員、スタッフ)

宇都宮 崇(広島市)

長尾 浩士(広島市)

汐崎 文浩(広島市)

若竹 明廣(広島市)

鈴政 和昭(広島市)

車地 誠子(呉市)

佐々木育子(呉市)

岸田 実(福山市)

泉 一成(三次市)

湧山 泰幸(安芸高田市)

編集後記

～今年1年を振り返って～

私が本年4月に広島県から(公財)広島県体育協会に派遣されて、はや1年が過ぎようとしています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「2020東京オリンピック」や「かごしま国体」の延期、冬季国体スキー競技会の中止など、多くの大会行事等が延期や中止に追い込まれ、例年とは全く異なり、スポーツ界にとって非常に厳しい1年となってしまいました。また、本協会の事業におきましても、その多くが中止となったことにより、本誌も年3回の発行を予定していたところが、誠に残念ながら本年は本号を含め年2回の発行となってしまいました。本誌の発行を心待ちにしていた皆様には、この場をお借りしてお詫び申し上げます。こうした非常に厳しい状況の中ではありませんでしたが、本協会の事業として、「広島県民体育大会」や「室内ひろしまストリート陸上プラススペシャル」を実施することができました。これもひとえに本誌をご購読いただいている皆様をはじめとする本県スポーツに関わる方々のご協力があってこそのものであり、この場をお借りしまして、深く感謝申し上げます。最後に、今後も皆様に楽しんでいただける広報誌を目指して発行して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。(事務局次長 山本武雄)



未来を、ひろげる。

広島銀行グループは、
「ひろぎんホールディングス」へ。

私たちは、お客さまに寄り添い、声に耳を傾け、
真に信頼される「地域総合サービスグループ」として
お客さまとともに、この地域の未来をひろげます。



HIROGIN HOLDINGS

広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんキャピタルパートナーズ | ひろぎんリース

ひろぎんITソリューションズ

ひろぎんエリアデザイン※

ひろぎんヒューマンリソース※

※2021年4月1日設立予定
(2021年1月28日現在) [Z102]

小さな掛金、
大きな補償

スポーツ安全保険[®]

文化活動やボランティア活動等もご加入できます

ご加入は
インターネット
でのお手続きが
便利です。

[引受幹事保険会社]
東京海上日動火災保険株式会社

[共同引受保険会社(2021年4月予定)]
あいおいニッセイ同和／共栄火災／損保ジャパン／大同火災／
東京海上日動／日新火災／三井住友海上／AIG損保

保険の詳細内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。
<https://www.sportsanzen.org>

スポーツ安全保険

検索

